

Asahi**KASEI**

グループ事業のご報告

第128期上半期決算

2018.4.1 — 2018.9.30

証券コード:3407

旭化成株式会社

## グループ理念

私たち旭化成グループは、  
世界の人びとの“いのち”と“くらし”に貢献します。

時代環境や社会の求めるものが変わっても、変わることなく、  
旭化成グループとして永遠に追求し続けるもの。  
それは世界の人びとを想い続けることに他なりません。

## グループビジョン

「健康で快適な生活」と「環境との共生」の実現を通して、  
社会に新たな価値を提供していきます。

## グループバリュー

【誠実】：誰に対しても誠実であること。

【挑戦】：果敢に挑戦し、自らも変化し続けること。

【創造】：結束と融合を通じて、新たな価値を創造すること。

## グループスローガン

昨日まで世界になかったものを。

私たち旭化成グループの使命。  
それは、いつの時代でも世界の人びとが“いのち”を育み、  
より豊かな“くらし”を実現できるよう、最善を尽くすこと。  
創業以来変わらぬ人類貢献への想いを胸に、  
次の時代へ大胆に応えていくために。  
私たちは、“昨日まで世界になかったものを”創造し続けます。

## ごあいさつ

平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

また、今夏は各地において地震、風水害が数多く発生しました。被災されました皆さまには心からお見舞い申し上げますとともに、被災地の一日も早い復興をお祈りいたします。

さて、“グループ事業のご報告”をお届けするにあたり、一言ごあいさつ申し上げます。

2018年度上半期における世界経済は、米国、欧州、中国などの主要国が堅調に成長したほか、日本経済も底堅く推移しました。

このような状況の中で、当上半期の当社グループの連結業績は、ケミカル事業におけるアクリロニトリルなどの石油化学製品の取引条件改善や、クリティカルケア事業における医療機関向け除細動器の販売数量増加などにより、前年同期比で増収・増益となりました。また、売上高、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益のすべてにおいて、上半期として過去最高を更新しました。

当社グループでは現在、2018年度を最終年度とする

3カ年の中期経営計画『Cs for Tomorrow (シーズ・フォー・トゥモロー) 2018』を進めています。この計画は、「クリーンな環境エネルギー社会」、「健康・快適で安心な長寿社会」の実現に向け、当社グループが多様な事業を通じて社会に貢献していくことを目指すものです。また、2025年度に向け、当社グループのあるべき姿を「収益性の高い付加価値型事業の集合体」と定め、この3カ年は飛躍の基盤をつくることに邁進してきました。計画最終年度となる本年度においては、本計画を着実に達成することに加え、さらなる成長を実現するための次期中期経営計画の策定に取り組んでまいります。

今後も「世界の人びとの“いのち”と“くらし”に貢献」すべく、「ESG」\* 課題に取り組むとともに、さらなる企業価値の向上と持続的成長を図ってまいりますので、引き続き株主の皆さまのご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2018年11月

\*ESG (Environment=環境、Social=社会、Governance=ガバナンス)

# To Our Shareholders



代表取締役社長 小堀 秀毅

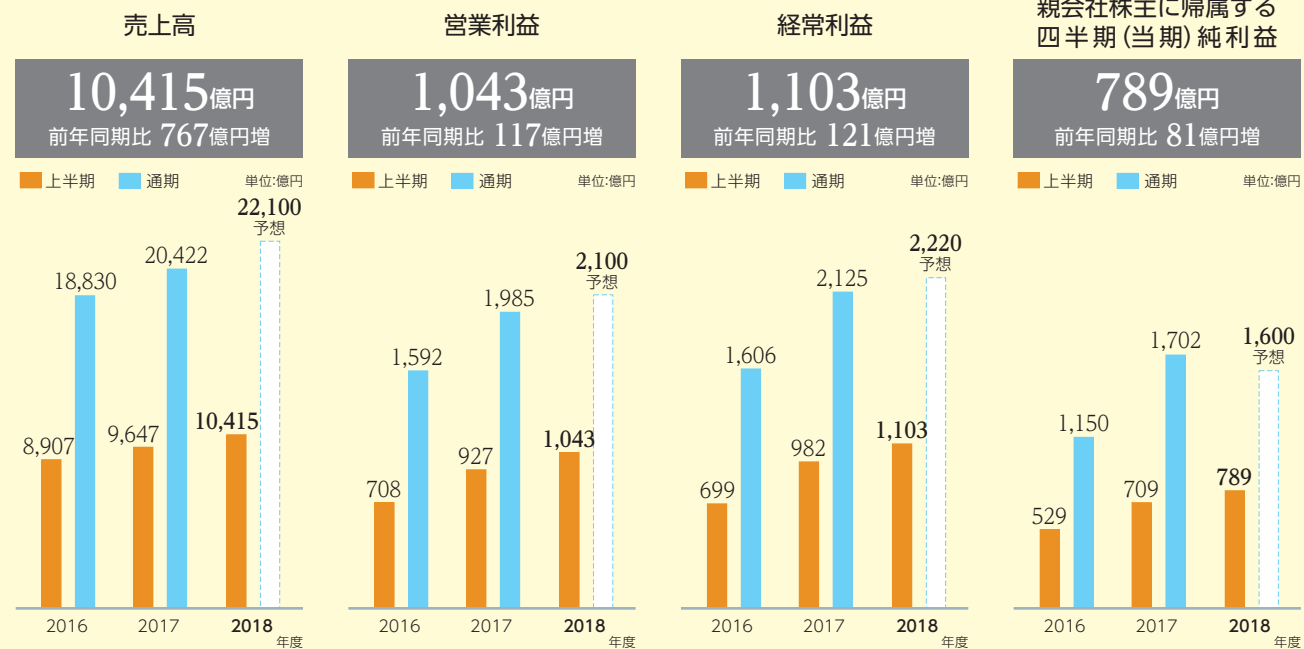
# Highlights

前年同期比で増収増益。

売上高・営業利益・経常利益・親会社株主に帰属する四半期純利益は過去最高を更新。

当社グループの当上半期(2018年4月～9月)における連結業績は、「マテリアル」セグメントにおいてケミカル事業で石油化学製品を中心に交易条件が改善したことに加え、「ヘルスケア」セグメントにおいてクリティカルケア事業で医療機関向け除細動器の販売数量が増加したことなどから、売上高は10,415億円で前年同期比767億円の増収、営業利益は1,043億円で前年同期比117億円の増益、経常利益は1,103億円で前年同期比121億円の増益、親会社株主に帰属する四半期純利益は789億円で前年同期比81億円の増益となりました。また、親会社株主に帰属する四半期純利益は、投資有価証券売却益を計上したことなどから789億円で前年同期比81億円の増益となり、売上高、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益のすべてにおいて、上半期として過去最高を更新しました。なお、当上半期の中間配当につきましては、1株あたり17円とさせていただきます。

で前年同期比121億円の増益となりました。また、親会社株主に帰属する四半期純利益は、投資有価証券売却益を計上したことなどから789億円で前年同期比81億円の増益となり、売上高、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益のすべてにおいて、上半期として過去最高を更新しました。なお、当上半期の中間配当につきましては、1株あたり17円とさせていただきます。

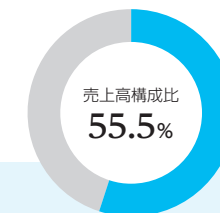


※ 2018年度通期の予想値は、2018年11月2日時点のものです。

事業活動の状況をお知らせします。

## Material Segment

マテリアル セグメント



売上高は5,781億円で前年同期比592億円(11.4%)の増収となり、営業利益は721億円で前年同期比114億円(18.8%)の増益となりました。

売上高 **5,781** 億円 (前年同期比 **11.4%** 増)

営業利益 **721** 億円 (前年同期比 **18.8%** 増)

### 【繊維事業】

原燃料価格上昇などの影響を受けましたが、マイクロファイバースエード「ラムース」やキュプラ不織布「ベンリーゼ」などの販売数量が増加したことなどから、前年同期比増収、増益となりました。

### 【ケミカル事業】

石油化学事業では、アクリロニトリルなどの交易条件が改善したことや、前期に実施したナフサクラッカー(三菱ケミカル旭化成エチレン(株))定期修理の影響がなくなったことなどから、前年同期比増収、増益となりました。

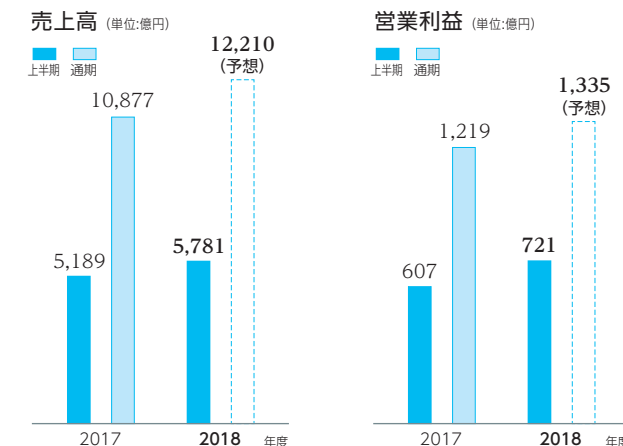
高機能ポリマー事業では、エンジニアリング樹脂の販売が堅調に推移しましたが、合成ゴムにおいて前年同期の交易条件が良好に推移した反動による影響を受けたことなどから、前年同期比増収、減益となりました。

高機能マテリアルズ事業・消費財事業では、イオン交換膜などの販売が堅調に推移しましたが、電子材料製品の販売数量が減少したことや、消費財事業でコストが上昇したことなどから、前年同期比増収、減益となりました。

### 【エレクトロニクス事業】

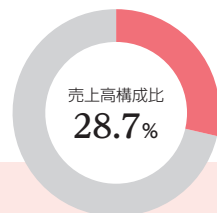
セパレータ事業では、リチウムイオン二次電池用セパレータの販売数量が増加したことなどから、前年同期比増収、増益となりました。

電子部品事業では、スマートフォン向けカメラモジュール用電子部品などの販売が前年を下回ったことなどから、前年同期比減収、減益となりました。



# Homes Segment

住宅 セグメント

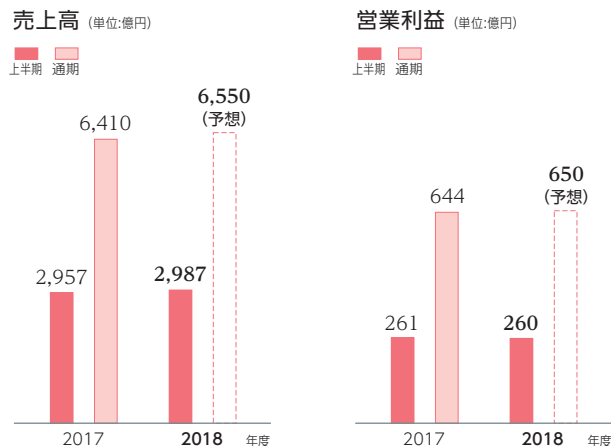


売上高は2,987億円で前年同期比30億円(1.0%)の増収となり、営業利益は260億円で前年同期比1億円(0.4%)の減益となりました。

売上高 **2,987** 億円 (前年同期比 1.0%増)  
営業利益 **260** 億円 (前年同期比 0.4%減)

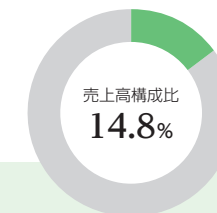
**住宅事業**では、戸建住宅「ヘーベルハウス」の引渡棟数が減少したことなどから、前年同期比減収、減益となりました。建築請負部門の受注高は、戸建・集合住宅ともに増加し、前年同期比8.8%の増加となりました。また、不動産部門の賃貸管理事業、分譲事業がともに堅調に推移したことなどから、前年同期比増収、増益となりました。

**建材事業**では、断熱材などの販売数量が堅調に推移しましたが、原燃料価格高騰の影響を受けたことなどから、前年同期比増収、営業利益は前年同期並みとなりました。



# Health Care Segment

ヘルスケア セグメント



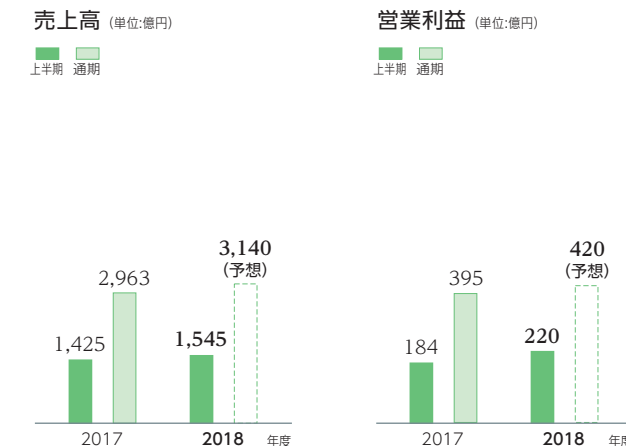
売上高は1,545億円で前年同期比120億円(8.4%)の増収となり、営業利益は220億円で前年同期比36億円(19.4%)の増益となりました。

売上高 **1,545** 億円 (前年同期比 8.4%増)  
営業利益 **220** 億円 (前年同期比 19.4%増)

**医薬事業**では、骨粗鬆症治療剤「テリボン」などの新薬は販売数量が増加しましたが、薬価改定や後発医薬品の影響を受けて長期収載品が減収となったことから、前年同期比減収、減益となりました。

**医療事業**では、ウイルス除去フィルター「プラノバ」の販売数量が増加したことなどから、前年同期比増収、増益となりました。

**クリティカルケア事業**では、医療機関向け除細動器の販売数量が増加したことなどから、前年同期比増収、増益となりました。



# Other

その他

売上高は102億円で前年同期比26億円(33.9%)の増収となり、営業利益は12億円で前年同期比6億円(84.3%)の増益となりました。

# 米国の自動車内装材メーカー Sage Automotive Interiors, Inc.を買収

## 自動車メーカーおよび部品メーカーとのコネクト(関係)強化

当社は、本年7月に、米国の自動車内装材メーカーである Sage Automotive Interiors, Inc. (本社:米国サウスカロライナ州、以下「Sage(セージ)社」)を買収することについて合意し、その後必要な手続きを経て、9月27日に買収が完了し、Sage社は当社グループの一員となりました。

### 【Sage社 概要】

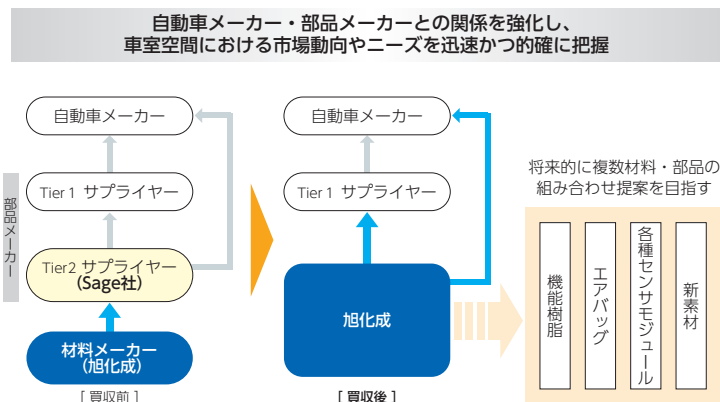
設立: 2009年に米国の繊維・化学品メーカー「Milliken & Company」からスピノフ  
所在地: (本社) 米国サウスカロライナ州グリーンビル市  
(生産拠点) 米国、イタリア、ポーランド、ルーマニア、ブラジル、中国  
CEO: ダーク・パイパー  
従業員数: 約2,200人(2018年3月31日現在)



Sage本社におけるレセプションパーティーにて、  
ダーク・パイパーCEOと当社小堀 秀毅社長

当社は現中期経営計画「Cs for Tomorrow 2018」において、マテリアル領域の重点分野の1つとして自動車分野向け事業の拡大を図っており、2025年度に向けて、自動車分野向けの売上高を、2015年度時点(約1,000億円)の3倍の約3,000億円へ伸ばす目標を掲げています。そのために、領域内横断で「自動車メーカーおよび部品メーカーとのコネクト(関係)強化」「グローバル拠点の確立」などを推進しています。

## ■ 「川上」から「川中」へサプライチェーンを拡大



昨今自動車産業においては、「CASE」(C: Connected: コネクテッドカー、A: Autonomous: 自動運転、S: Shared: シェアリング、E: Electric: 電動化)に代表される新たなトレンドによって大きな変革が起きており、自動車分野向け事業に大きな成長機会が生まれています。その流れの中で、車室空間にはこれまでにない快適性やデザイン性が求められており、内装市場の中長期的な拡大が見込まれています。

## ■ 当社の車室空間向け製品・技術

繊維製品、樹脂製品、センサ等による総合ソリューション力で  
安全・快適な車室空間の創出に貢献

快適でメンテナンス  
しやすいシート素材

- ▶ マイクロファイバースエード「ラムース™」
- ▶ スパンボンド不織布「エルタス™」
- ▶ 発泡ポリエチレン「メフ™」



高いデザイン性の  
高機能樹脂

- ▶ ポリアセタール樹脂「テナック™」
- ▶ ABS系アロイ樹脂「エステロイ™」
- ▶ アクリル樹脂 (PMMA) 「デルペット™」
- ▶ アクリル樹脂シート「デラグラス™」

安全・快適な空間を  
実現する新技術

- ▶ CO<sub>2</sub>センサ
- ▶ アルコールセンサ
- ▶ 非接触脈波センシング
- ▶ ホール素子

新規開発事業 : 新素材によるソリューション (CNF等)  
オープンイノベーション : CVC機能の強化

Sage社は自動車内装材に用いる各種繊維製品の開発・製造・販売を手掛け、シートファブリック市場ではグローバルNo.1シェアを保持しています。当社はマイクロファイバースエード「ラムース™」をSage社に販売しており、従来から良好な関係を構築・維持してきました。

今後は、Sage社の内装材事業の垂直統合により、自動車メーカーや部品メーカーへのアクセスを強化し、自動車市場の動向やニーズを迅速かつ的確に把握するとともに、Sage社の有する高いデザイン力・マーケティング力と、当社の多様な製品・技術をコネクトし、総合的な車室内ソリューションのデザイン・提案・提供をすることで、成長する自動車内装材市場でのポジションを強化し、自動車分野向け事業の拡大実現を目指します。



Sage社の高性能カーインテリアファブリック「Dinamica®」  
※「Dinamica®」は、当社の「ラムース」を使用した製品です。

# 走るコンセプトカー「AKXY™ (アクシー)」 リニューアルモデル、欧州初上陸！



● Düsseldorf

旭化成は昨年5月に自動車関連事業の総合的なマーケティングアプローチの一環として、「自動車の安全・快適・環境への貢献」をテーマとし、当社グループの自動車関連部材を搭載したコンセプトカー「AKXY™」を発表しました。当社グループが扱う主力製品や次世代部材・システムを27品目搭載し、数多くの展示会を通じて、自動車メーカーや自動車部品メーカーのお客さまに対し自動車の安全性、快

適性の向上、環境への貢献に応じた多様なキーアイテムを総合的に提案してきました。

今回、当社技術の「進化」をテーマに車体のさらなる軽量化・低燃費化や安全・快適性のいっそうの向上を実現する構造材料やセンシング・サウンド技術など8製品を新たに追加搭載（既存と併せ総計35品目搭載）し、ボンネット内を見えるように改良するなど、多くのニーズに対してご提案ができるようリ



欧州の自動車メーカー向けに開催したプライベート展示会の様子



ビジネスフォーラムにて「AKXY™」リニューアルモデルを初披露した様子

ニューアルしました。

また、本年9月、ドイツのデュッセルドルフで開催された旭化成ヨーロッパ主催による「第二回 ビジネスフォーラム」では、リニューアルモデルの「AKXY™」を現地メディア、現地の自動車メーカーや自動車部品メーカーのお客さまに初披露しました。

あわせて、欧州の展示会への出展や、自動車メーカーおよび自動車部品メーカー向けプライベート展示会でも「AKXY™」を披露し、欧州における当社自体の認知度向上と、当社の技術力PRを図りました。

当社は今後も、顧客満足の向上と新たな価値の創造を通じて、自動車関連事業を積極的に拡大していきます。

## Point

**当上半期末の総資産**は、Sage Automotive Interiors, Inc.を  
買収したことなどにより、無形固定資産が1,254億円、たな卸  
資産が510億円、有形固定資産が468億円増加したことなどか  
ら、前年度末に比べて2,649億円増加し、2兆5,720億円となり  
ました。

**負債**は、有利子負債が1,416億円増加したことなどから、前年  
度末に比べて1,799億円増加し、1兆1,818億円となりました。

**純資産**は、配当金の支払が279億円あったものの、親会社株主  
に帰属する四半期純利益を789億円計上したことや、為替換算  
調整勘定が316億円増加したことなどから、前年度末に比べて  
850億円増加し、1兆3,902億円となりました。

この結果、自己資本比率は53.2%となりました。

**営業活動によるキャッシュ・フロー**は、たな卸資産の増加  
416億円、法人税等の支払413億円、売上債権の増加100億円  
などの支出があったものの、税金等調整前四半期純利益1,151  
億円、減価償却費398億円、前受金の増加150億円などの収入  
があったことから、737億円の収入となりました。

**投資活動によるキャッシュ・フロー**は、貸付金の回収による  
収入110億円、投資有価証券の売却による収入81億円などが  
あったものの、Sage Automotive Interiors, Inc.買収などにより  
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出785億  
円、有形固定資産の取得による支出555億円などがあったこと  
から、1,191億円の支出となりました。

**財務活動によるキャッシュ・フロー**は、配当金の支払279億  
円、長期借入金の返済による支出120億円などの支出があった  
ものの、コマーシャル・ペーパーの増加510億円、短期借入金の  
増加483億円などの収入があったことから、612億円の収入と  
なりました。

これに加え、現金及び現金同等物に係る換算差額による  
増加35億円、連結範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増加  
8億円があったことから、**現金及び現金同等物の四半期末残高**  
は、前年度末に比べ202億円増加し、1,688億円となりました。

## 連結貸借対照表(要旨)

科 目	単位：億円		
	当上半期 2018年9月30日現在	前 期 2018年3月31日現在	前上半期 2017年9月30日現在
<b>●資産の部</b>			
流動資産	10,272	9,389	9,296
固定資産	15,448	13,682	13,988
有形固定資産	6,088	5,620	5,623
無形固定資産	5,400	4,146	4,491
投資その他の資産	3,960	3,915	3,875
<b>資産合計</b>	<b>25,720</b>	<b>23,072</b>	<b>23,284</b>
<b>●負債の部</b>			
流動負債	7,677	5,891	6,044
固定負債	4,141	4,128	4,747
<b>負債合計</b>	<b>11,818</b>	<b>10,019</b>	<b>10,791</b>
<b>●純資産の部</b>			
株主資本	12,118	11,608	10,810
資本金	1,034	1,034	1,034
資本剰余金	794	794	794
利益剰余金	10,329	9,819	9,021
自己株式	△ 39	△ 39	△ 39
その他の包括利益累計額	1,567	1,266	1,507
非支配株主持分	217	178	175
<b>純資産合計</b>	<b>13,902</b>	<b>13,052</b>	<b>12,493</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>25,720</b>	<b>23,072</b>	<b>23,284</b>

※「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号)等を当第1四  
半期連結会計期間から適用しており、前連結会計年度に係る連結貸借対照表につ  
いては、当該会計基準を遡って適用した後の金額となっています。

## 連結損益計算書(要旨)

科 目	単位：億円		
	当上半期 2018年4月1日~ 2018年9月30日	前上半期 2017年4月1日~ 2017年9月30日	前 期 2017年4月1日~ 2018年3月31日
売上高	10,415	9,647	20,422
売上原価	7,050	6,515	13,931
売上総利益	3,365	3,132	6,491
販売費及び一般管理費	2,322	2,206	4,506
<b>営業利益</b>	<b>1,043</b>	<b>927</b>	<b>1,985</b>
営業外収益	131	108	278
営業外費用	71	53	137
<b>経常利益</b>	<b>1,103</b>	<b>982</b>	<b>2,125</b>
特別利益	71	63	157
特別損失	22	27	99
<b>税金等調整前純利益</b>	<b>1,151</b>	<b>1,017</b>	<b>2,183</b>
法人税等	351	297	461
四半期(当期)純利益	800	720	1,722
非支配株主に帰属する 四半期(当期)純利益	損11	損11	損19
<b>親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益</b>	<b>789</b>	<b>709</b>	<b>1,702</b>

## 連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

科 目	単位：億円		
	当上半期 2018年4月1日~ 2018年9月30日	前 期 2017年4月1日~ 2018年3月31日	前上半期 2017年4月1日~ 2017年9月30日
営業活動による キャッシュ・フロー	737	2,499	1,150
投資活動による キャッシュ・フロー	△ 1,191	△ 1,103	△ 530
財務活動による キャッシュ・フロー	612	△ 1,344	△ 459
現金及び現金同等物に 係る換算差額	35	△ 9	11
現金及び現金同等物の 増減額	194	42	172
現金及び現金同等物の 期首残高	1,486	1,441	1,441
連結範囲の変更に伴う現金及び 現金同等物の増減額(△は減少)	8	3	3
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	1,688	1,486	1,616

## ホームページのご紹介

旭化成 決算 説明会 検索



最新の決算説明会の  
内容を、音声および  
スライド資料にて  
ご確認いただけます。

「音声+スライド」  
をクリック!!

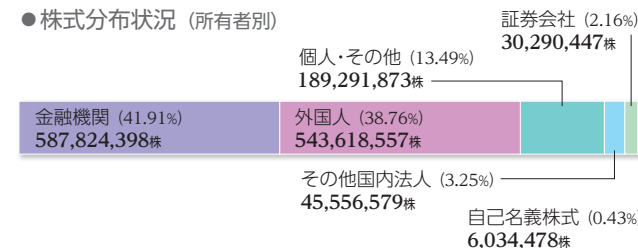
【会社概要】

商号 旭化成株式会社 (Asahi Kasei Corporation)  
 設立年月日 1931年5月21日  
 資本金 103,388,521,767円  
 主要事業 ケミカル・繊維、住宅・建材、エレクトロニクス、ヘルスケア等の事業  
 本社 〒100-0006 東京都千代田区有楽町一丁目1番2号 日比谷三井タワー  
 電話 (03) 6699-3000  
 \*2018年9月本社を移転いたしました。  
 連結対象子会社 171社  
 持分法適用会社 54社  
 URL http://www.asahi-kasei.co.jp/

【役員】

代表取締役 取締役社長 社長執行役員	小堀 秀毅	常勤監査役	小林 友二
代表取締役 副社長執行役員	中尾 正文	常勤監査役	城戸 信介
取締役 専務執行役員	柴田 豊	社外監査役	真壁 昭夫
取締役 常務執行役員	坂本 修一	社外監査役	伊藤 鉄男
取締役 常務執行役員	柿澤 信行	社外監査役	小西 彦衛
取締役 上席執行役員	橋爪 宗一郎		
社外取締役	白石 真澄		
社外取締役	立岡 恒良		
社外取締役	岡本 毅		

● 株式分布状況 (所有者別)



【株式の状況】

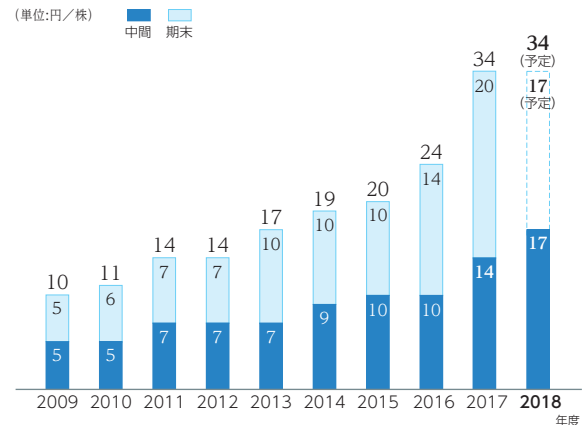
発行可能株式総数 4,000,000,000 株  
 発行済株式の総数 1,402,616,332 株  
 株主数 77,278 名

● 大株主 (上位10名)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
JP MORGAN CHASE BANK 380055	146,709	10.50
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	82,361	5.90
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	61,234	4.38
日本生命保険相互会社	58,400	4.18
株式会社三井住友銀行	35,404	2.54
旭化成グループ従業員持株会	32,204	2.31
SSBTC CLIENT OMNIBUS ACCOUNT	27,189	1.95
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口5)	26,315	1.88
STATE STREET BANK WEST CLIENT-TREATY 505234	21,078	1.51
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口7)	20,387	1.46

(注)持株比率は、発行済株式総数から自己株式を除いた数に対する割合を示しています。

【配当の年度推移】 (1株あたり)



2018年度の期末配当については、総還元性向35%を基準として連結純利益に基づき決定する方針です。

Close-up

クローズアップ

# 国際自動車連盟(FIA) World Rally Championship(WRC)とのオフィシャルパートナーシップの締結

旭化成は、本年7月に、国際自動車連盟(本部:フランス・パリ市、以下「FIA」)が主催する公道を舞台とした世界最高峰のモータースポーツ、世界ラリー選手権(World Rally Championship、以下「WRC」)とオフィシャルパートナーシップを締結しました。

FIAが管轄するラリーカーによる最高峰の世界選手権レースであるWRCは、Formula One World Championship (F1)と並び、“World Championship”の称号が使用できる選手権の一つです。世界13ラリー、15カ国を巡り、市販車をベースに改造したラリーカーで、公道を、あらゆる天候、気温、路面コンディションのもと、最も速く完走するチームを決めるスポーツイベントです。

昨年は世界155の地域で延べ13,000時間以上にわたってレース映像がテレビ放映され、SNS配信やライブ動画なども合わせると、約8億5,000万人が視聴しています。特に欧州では年間10カ国で競技が行われ、F1に勝るとも劣らない人気を誇っています。

歴史的に欧州での人気が高く、開催地域に密着したモータースポーツであるWRCとのパートナーシップの締結を通じて、欧州各国における当社の認知度向上を図るとともに、

最も過酷な環境で速さを競うことで自動車性能の向上に常に挑戦し続ける自動車産業への貢献を目指していきます。



【2018年のオフィシャルパートナーシップの概要】

2018年8月16～19日に開催されたドイツラウンド、10月4～7日に開催されたイギリスラウンド、10月25～29日に開催されたスペインラウンドにおいて、WRCオフィシャルパートナーとして協賛しました。今回の協賛では、WRCに参戦するラリーカーのフロントウィンドウや、開催都市の市内および近郊のラリーコースに当社のグループロゴが掲出されました。



## 株式メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	6月下旬
基準日	定時株主総会・期末配当 3月31日 中間配当 9月30日
公告方法	電子公告 http://www.asahi-kasei.co.jp/asahi/jp/koukoku/ index.html

### 株主名簿管理人・特別口座管理機関

三井住友信託銀行株式会社

〈連絡先〉〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号  
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部  
電話 ☎ 0120-782-031 (平日9時~17時)

## 特別口座の株式の振替え

### 特別口座とは

株券電子化前に「ほふり」(株式会社証券保管振替機構)に預託されていた  
なかった株式は、三井住友信託銀行に開設された「特別口座」にて記録  
されています。「特別口座」に記録されている株式は、株式市場で売却  
できません。売却される場合には、証券会社に株主さま名義の取引口座  
を開設して株式を振り替える必要があります。

振替え手続きについては、三井住友信託銀行にお問合せください。

## マイナンバーに関するお知らせ

2016年1月からマイナンバーの利用が開始されました。市区町村から  
通知されたマイナンバーは、株式に関する税務手続きのため、株主さま  
からお取引証券会社等へお届けいただく必要があります。

お届けに関する手続きにつきましては、下記までお問い合わせください。

- 証券会社に口座開設されている株主さま  
口座を開設されているお取引証券会社にお問合せください。
- 特別口座に記録されている株式の株主さま  
三井住友信託銀行にお問合せください。

## 旭化成株式会社

〒100-0006 東京都千代田区有楽町一丁目1番2号  
http://www.asahi-kasei.co.jp

## 配当金について

### 配当金領収証方式の取扱期限

第128期中間配当金について、配当金領収証方式にて配当金をお受取  
りの株主さまは、**2019年1月11日(金)まで**にゆうちょ銀行・郵便局にて  
お受取りください。

### 除斥期間

配当金は、支払開始の日から**満3年**を経過しますと、定款の規定により  
お支払いできなくなりますので、お早めにお受取りください。

### 未受領の配当金

支払開始の日から満3年を経過していない未受領の配当金は、三井住  
友信託銀行よりお支払いいたしますので、三井住友信託銀行にお問合  
せください。

### 口座振込でのお受取り

配当金のお受取りにあたっては、安全・確実な口座振込のご利用をお奨  
めいたします。

## 単元未満株式の買取・買増 住所・氏名の変更、配当金受領方法の変更

### 単元未満株式の買取・買増、住所・氏名の変更、配当金受領方法 の変更について

- 証券会社に口座開設されている株主さま  
口座を開設されているお取引証券会社にお問合せください。
- 特別口座に記録されている株式の株主さま  
三井住友信託銀行にお問合せください。

### ※単元未満株式の買取・買増について

単元未満株式(1株~99株)は株式市場で売買することはできませんが、  
当社に対して市場価格でその買取りを求める制度(買取請求)、1単元  
まで不足する株式を当社から市場価格で買い増す制度(買増請求)をご  
利用いただけます。

